

徳島県立農林水産総合技術支援センターなどは、ハウス加温機の効果を高めたため、燃焼に必要な空気を、ハウス外から取り入れる方法を開発した。ハウス内の空気を使うこれまでの方法では、ハウス内の気圧が下がり、隙間から外気が入って加温効果が十分に発揮できなかった。外気を燃焼するため加温機の稼働時間が落ちるが、それ以上にハウスの温度を維持される力が強く、加温機の稼働時間が減少。他の加温対策と併せ、10~10数万円のコスト削減につながるといえます。

一般的に、加温機の燃焼にはハウス内の酸素を利用し、排ガスを煙突から外に出す。ハウス内の酸素を使って煙突から外に排氣するため、ハウス内の気圧は下がる。外気より気圧が下がると、ハウスの隙間から冷たい外気が流れ込んで、ハウス内の温度を下げる。外気の稼働時間が増える。

ハウス加温機効果 外気でアップ

手法開発 徳島県が 稼働時間と燃油減らす

一般的に、加温機の燃焼にはハウス内の酸素を利用し、排ガスを煙突から外に出す。ハウス内の酸素を使って煙突から外に排氣するため、ハウス内の気圧は下がる。外気より気圧が下がると、ハウスの隙間から冷たい外気が流れ込んで、ハウス内の温度を下げる。外気の稼働時間が増える。

一般的に、加温機の燃焼にはハウス内の酸素を利用して煙突から外に排氣する。ハウス内の酸素を使い、排ガスを煙突から外に出す。ハウス内の酸素を使って煙突から外に排氣するため、ハウス内の気圧は下がる。外気より気圧が下がると、ハウスの隙間から冷たい外気が流れ込んで、ハウス内の温度を下げる。外気の稼働時間が増える。

一般的に、加温機の燃焼にはハウス内の酸素を利用して煙突から外に排氣する。ハウス内の酸素を使い、排ガスを煙突から外に出す。ハウス内の酸素を使って煙突から外に排氣するため、ハウス内の気圧は下がる。外気より気圧が下がると、ハウスの隙間から冷たい外気が流れ込んで、ハウス内の温度を下げる。外気の稼働時間が増える。